

**平成30年度第1回秋田県介護サービス事業所認証評価制度推進委員会
議 事 録**

1 日 時 平成30年10月25日(木) 午後3時から午後4時30分まで

2 場 所 秋田地方総合庁舎6階 610会議室

3 出席者

【委員】(14名中12名出席) ※敬称略

藤井周二	秋田県老人福祉施設協議会 副会長
佐々木章	秋田県介護老人保健施設連絡協議会 事務長
高橋祐策	秋田県認知症グループホーム連絡協議会 会長
伊藤二雄	秋田県社会福祉法人経営者協議会 副会長
小原秀和	特定非営利活動法人秋田県介護支援専門員協会 副会長
渡部幸雄	一般社団法人秋田県介護福祉士会 会長
土室修	日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科長
柴田博	秋田看護福祉大学 教授
石沢真貴	秋田大学教育文化学部 地域文化学科 教授
藤田智恵	秋田大学大学院医学系研究科 助教
照井富士男	秋田県民生児童委員協議会 副会長
金澤勲	秋田労働局職業安定部 職業安定課長
嵯峨之博	秋田市福祉保健部 介護保険課長

※欠席委員

上田瑞枝(秋田県ホームヘルパー協議会 副会長)

【県】

佐々木 薫	健康福祉部 次長
奈良 滋	長寿社会課 課長
後藤 富美夫	長寿社会課 介護保険班 副主幹(兼)班長
山田 洋之	長寿社会課 介護保険班 副主幹
菅野 克己	長寿社会課 介護保険班 広報連絡調整員

4 審議内容

開 会

あいさつ 奈良 滋 長寿社会課課長

報 告

(1) 認証評価制度の進捗状況について

- ① 各種支援状況
- ② 参加宣言事業者数
- ③ 認証申請事業者数及び審査状況

石沢座長 認証評価制度の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

<事務局より一括して説明>

石沢座長 事務局から説明があったが、進捗状況についてご意見やご質問等をお願いしたい。

伊藤委員 認証申請を取り下げた事業者があるということだが、その理由は何か。

菅野 実地審査前の書類審査でかなりの不備が見られたことから、その旨伝えたところ、今回は取り下げて、各種支援を受けてから再チャレンジしたいということであった。

報 告

(2) 今後のスケジュールについて

石沢座長 今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局より説明>

石沢座長 ご質問やご意見をお願いしたい。

石沢座長 セミナーの開催日程の組み方について、事業者にとって組みやすい時期を考慮しているのか

山田副主幹 年2回の認証となっており、それに合わせ基礎セミナー・専門セミナーと順追って進めている。このため、事業者にとっては進めやすいと思われる。

なお、日程についてはあらかじめ事業者にお知らせし、都合が悪い場合は、電話による相談や個別相談にて対応している。

議 事

(1) 認証評価制度の普及について

① 県の取組

② 関係団体の取組

石沢座長 制度普及に向けた取組について、はじめに事務局より説明をお願いします。

<事務局より説明>

石沢座長 事務局より制度普及に向けた取組について説明があったが、次に関係団体の取組について、出席の委員の皆さんからご発言いただきたい。

藤井委員 介護職員・看護職員の人手不足の状況から、人材確保のうえで認証を取得することは必要だと勧めているが、認証基準のハードルが高いということで、参加宣言について尻込みしているところが見受けられる。ところで、お聞きしたい。認証基準の内容だが、何年後かに見直しということはあるのか。

山田副主幹 スタートして2年目であるので、現時点で見直しは考えていない。ただし、状況の変化に応じて見直す必要が認められれば、検討することになる。

藤井委員 その認証基準の内容に追いついていないところもあり、基準の見直しの可能性について聞かれたので、質問したところだ。

佐々木委員 現在介護老健は54カ所あり、その中で参加宣言事業者は15ヶ所、認証事業者は4ヶ所である。制度について勉強しているが、中々ハードルが高いという声は聞いている。医療法人は老健、グループホームなどがあることから、総合的な対策をしなければならないので難しいところである。介護職員が不足しているのは同様であり、年々厳しさを増している。外国人の受け入れが考えられる中、認証評価と介護人材確保は直接繋がらないのではないかという感覚である。しかし、受入体制整備という点を捉えると、働く側から見て大事だと考えている。参加宣言をしてから、各種研修や相談ということだが、一般に周知する研修会等も必要なのではないかと思われる。

高橋委員 認知症グループホームは零細事業者が多く、認証制度に踏み切れないという声がある。

多い。処遇改善加算1を取ることがやっとというところもあり、合併等も視野に入れなければならないと考えている。グループホーム単独で「ルーク」さんが認証を取得したことから、励みになったところである。今年の春に認証評価制度に関する勉強会を開催したが、参加者が少なく、末端まで関心が行き届かない状況であった。認証取得によるメリットが大きいということが分かれば、認識も新たになっていくのかなと思う。

伊藤委員 高齢者部会で話し合われたところだが、認証取得によるメリットを明らかにしていくとともに、事業者のトップである理事長に認識してもらうことが重要と考えている。

小原委員 介護支援専門員会議等で普及促進について話しをしているが、会員は経営者ではないので、会としてどうしていけばよいか考えているところである。ケアマネの受験者が6割減少していることから、人員確保が課題である。介護職員がステップアップしてケアマネへと繋がっていくので、介護職員の確保が重要である。法人内では処遇改善加算の影響からケアマネよりも介護職員が人気となっている。今後は「介護福祉士会」と協力していかなければならないと考えている。

渡部委員 会員には制度について周知しているところである。その中で、会員から認証評価の重要性を事業者の上部に伝えてほしいといわれている。9/3の「導入促進セミナー」に参加した際、ある事業者が認証取得して何かメリットや変化があるかと言っていたことから、まだまだ、メリットの有無にとらわれている状況だという認識を持ったところである。また、書類が多すぎるという話もあったことから、もう少し簡略化すれば手を挙げる事業者も増えると感じたところである。

石沢座長 関係団体の皆さんから説明いただいたところだが、他の委員の皆さんからもご発言願いたい。

照井委員 美郷町で特養にも関わっているので、認証を取得させたいと考えている。介護福祉士が少なく人材確保したいところであるが、近くには介護福祉系の学校は六郷高校しかない。今年は23名の卒業生がいたが2名しか入職しなかった。以前は秋田短大も来てくれていたが、給料が安いと地元に戻ってくれない。「ロートピア仙南」では介護福祉士資格取得のために、大仙市や横手市の他施設職員も含め、勉強会を開催している。

嵯峨委員 秋田市では認証取得事業者には、「施設整備公募」で優遇することとしている。

土室委員 本学で先日「導入促進セミナー」が開催され、反応は非常によかった。学生は求職の際、近くの施設・待遇面・正規職員などが判断材料であったが、求人票では見えない「研修の充実」「キャリアアップ」などが説明の中で示されて、見える化されたことから、選択の意識が芽生えたようにおもう。求人にあたり、施設と企業が競争状態にあることから、学生に現場へ目を向かせるためには中身が明確にならなければならないと思う。

柴田委員 11月中旬に「導入促進セミナー」が開催される予定だが、学生には事業所を選ぶ時は、認証事業所を選ぶように言っている。当学の学生はほとんど福祉系に進んでいる。一部は刑務所や保護施設、手話のできる警察官、JR（職員が障害者への対応が非常に悪いので役立ちたいとして）に進んでいる。

金澤委員 認証取得法人の求人票にはその旨書いてもらっている。今年度、介護・医療・保育・建設・運輸の人材確保に力を入れ、県と共同宣言をしている。11/13にはその集まりがあるが、現場の生の声をいただき、PRに努めたいと考えている。また、求人の面接会を特別に開催することも考えている。

藤田委員 制度自体のメリットが何かをどう発信していくかということが課題と感じた。若い世代が現場に定着していくうえで、認証評価が選ぶ際の基準になるということから、その視点がメリットの一つと思われる。いずれ、未認証事業者にどう普及していくかが課題と思われる。

その他

石沢座長 「その他」に入らせてもらう。ここまで制度普及への取組について、情報交換をしたが、ここまでの内容で確認したい点はないか。

<発言なし>

まとめ

石沢座長 制度の運用がスタートして2年目を迎えているが、これまで94事業者から参加宣言があり、22事業者が認証となった。次回以降の認証に向けて取組を進めている事業者も多いようなので、次回の報告にも期待したい。今後、さらに多くの事業者からの参加宣言、認証に結びつけるため、県でも普及・啓発の方策について検討しているようなので、推進委員として私たち一人一人が何ができるかさらに議論を深めたいと思う。

石沢座長 それでは、以上で本日の議事を終了する。

閉 会

本日は誠にありがとうございました。